

女伏

白秋全集
28

童謡集
4

白秋全集 28 第九回配本(第Ⅱ期二五・三七巻・別巻一)

一九八七年九月七日 発行

定価四五〇〇円

著 者 北 原 白 秋

発行者 緑 川 亨

〒101 東京都千代田区一ツ橋二丁目五
発行所 株式会社 岩 波 書店

電話 〇三・六五・四二二
振替 東京六二六四〇

落丁本・乱丁本はお取替いたします

目次

『風と笛』

光堂	九
法隆寺	一〇
鶯張り	二
水車船	三
東大寺	五
猿沢の池	六
唐寺	八
光堂	九
野の宮	三
鳥追ひ	三
野の宮	四

祭のあと	三〇
まんどん	二一
朝顔、昼顔、夕顔	三三
かんぺう	四四
笛がなる	五五
瓢箪	七〇
左義長	五九
朝だ朝	三三
朝だ朝	四四
月に開いた	五五
茶の芽どき	六六
風に眼がある	六七
風は	六八
草堤	七〇
むぐつちよ	七一
霧	七二
鴨と狐師	七三

鷗の卵・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 五

池辺の鶴・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 七

朝のお月さん・・・・・・・・・・・・・・・・ 八

さより・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 九

お皿・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 一〇

東へ行けば・・・・・・・・・・・・・・・・ 一一

月夜にも・・・・・・・・・・・・・・・・ 一二

秋の野・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 一三

音・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 一四

池辺の鶴・・・・・・・・・・・・・・・・ 一五

鶴・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 一六

鶴の声・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 一七

雁風呂・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 一八

鶴のこゑ・・・・・・・・・・・・・・・・ 一九

唐黍もぎに・・・・・・・・・・・・・・・・ 二〇

機動演習・・・・・・・・・・・・・・・・ 二一

日のくれ	七
稲穂ぬすみ	九
氷のひわれめ	九
ちろり	九
鳥さし	一〇〇
雪のほらあな	一〇一
雪 女	一〇三
風邪の神さま	一〇四
つらつらつばき	一〇五
雪がとける	一〇七

『太陽と木銃』

太陽の子供 序詩	一五
太陽の子供	二六

日の丸万歳 二九

今日は八の日 大詔奉戴日の歌 三〇

日の丸万歳 三一

皇太子さまお生れなつた 三三

日本万歳皇太子さま 三五

継宮さま 三七

みんなの皇女さま 三九

秩父の宮さま 四〇

風の来る道 四三

軍艦日向 四四

クレーン 四五

沖 四六

かいがん 四八

海の台場 五〇

うちのボート 五二

さびれた砂山 五三

二人の兵隊さん	一四四
一錢蒸気	一四五
川つぶち	一四六
ラジオの塔	一四九
春が来る、来る	一五〇
麦 笛	一五一
兵隊さんと鳩	一五三
花火の兵隊	一五四
タンク	一五五
来た来た	一五七
お空は紫	一五八
今年の春	一六〇
てつきんコンクリート	一六一
鉄工場	一六三
しうんてん	一六四
ラジオの塔	一六五
青少年団	一六七

秋晴れ・・・・・・・・・・・・・一六八

汽車みち・・・・・・・・・・・・・一七〇

てんてつふ・・・・・・・・・・・・・一七二

高架線・・・・・・・・・・・・・一七三

きくわんしゃの家族・・・・・・・・一七三

ぼんぼん時計・・・・・・・・・・・・・一七五

工場の長靴・・・・・・・・・・・・・一七六

お窓の花・・・・・・・・・・・・・一七九

ビブウとガッグウ・・・・・・・・・・一八〇

知らぬふりして・・・・・・・・・・・・・一八一

お窓の小父さん・・・・・・・・・・・・・一八三

おまはりさん・・・・・・・・・・・・・一八四

もとゐたお家・・・・・・・・・・・・・一八五

雨ふり・・・・・・・・・・・・・一八六

先生んところ・・・・・・・・・・・・・一八八

すずしい夏・・・・・・・・・・・・・一九〇

山みち・・・・・・・・・・・・・一九二

柿もぎ	一六二
フウン	一六四
魚や	一六五
あをばうず	一六七
くすりびん	一六八
僕の自画像	一六九
雪の山道	一七〇
竹ばうき	一七二
しっけい	一七三
大寒小寒	一七四
僕の木銃	二〇四
一ぼんの線	二〇六
上へ上へ	二〇八
騎馬戦	二一一
カーン	二二三
山のぼり	二二四
木銃	二二六

赤上衣	二七
玩具の町	三八
遊動円木	三九
眼ばかり	三〇
ローラ・スケート	三三
オートジャイロ	三四
凧、凧あがれ	三五
ヨヨー	三六
竹馬	三八
勢ぞろへ	三九
あやつり人形	四一
お山の大将	四三
紙芝居	四三
その道この道	四七
おさそひ	四八
野道を	四九
その道、この道	五二

『国引』

おてだま	二四三
ゆふかた	二四四
谷中	二四六
さよなら	二四七

序	二五五
---	-----

その一 昔噺・神話・伝説篇	二五九
---------------	-----

高い山から	二六〇
腰折雀	二六一
トンとカラリと	二六三
花咲爺さんと小犬	二六五
浦島	二六六
一寸法師	二六七
こんころころりん	二六八
おむすびころりん	二七〇

ぶらぶら爺さん	三三
鼠の嫁入	三七
かりうど	三九
天狗の団扇	六一
文福茶釜	六二
鴨取権兵衛	六三
月夜の滝	六五
国引	六六
少彦名 すくなひこな	六八
山椒太夫	六九
驢馬の耳	七〇
その二 民話・土俗篇	七三
ころころ橋	七四
鈴 りん	七五
和尚さんと小僧さん	七七
もの	七九
大黒さま	八〇

福助さん	三〇一
なるほど爺さん	三〇三
すべり橋	三〇四

『大東亜戦争 少国民詩集』

僕らは昭和の少国民だ	三二
僕らは昭和の少国民だ	三三
誓へこのときこの八日	三四
大東亜地図	三六
東亜の児童	三八
アジアの青雲	三〇
あの声	三三
友	三四
ハワイ大海戦	三七
ハワイ大海戦	三八

Z 旗	三〇
その時	三一
海軍魂	三四
九軍神	三六
旗 艦	三八
クワンタン沖の思ひ出	四一
ソロモン夜襲戦軍歌	四三
言 葉	四五
還らぬ偵察機	四六
空の軍神	四九
空の軍神	五〇
けふぞ観兵式	五三
銃を高く	五四
工兵魂	五七
軍馬南進	五八
マライ攻略戦	六〇
八達嶺(朗読詩)	六九